

先日、同窓会事務局長から、阪本昭司先生がこの6月に亡くなられていたという連絡を受けました。今月初旬の善入先生の訃報に続く悲しい知らせでした。

先生は1941年山口県豊浦郡小串町(現・下関市)生まれ。広大教育学部卒業後、山口県内の高校に勤務された後、私が二年生に進級した1968年春に賀茂高校に赴任され、廿日市高校に転任される76年春まで在任されました。先生は数学が御担当で、私も二年間教えを受けることになりました。

着任されて半年くらい経過した時期の授業のなかで、産炭地にあった前任校の生徒に比べていかにものんびりしている、もっと意欲を持って、しっかりせいと強く諭されたことは今でも忘れられません。下記の御著書にも、この高校には「純朴な生徒が多く」とあります。このような賀茂高生についての印象は、一貫して持ち続けられたと思われまます。

2012年には、自伝『海と数学と椿』(文芸社)を公けにされ、私の元にも届けていただきました。そこでは、幼少期以来の先生の人生が、数学教育、生徒会指導、柔道を中心とした部活指導、組合活動などを軸に実に細かく生き生きと再現されています。

三段峡のキャンプや修学旅行を含む賀茂高校時代の教育活動、西条での新婚生活にもペンが及び、「出会いの不思議」と題する章では、担任された隣の5組の同級生達にも温かく言及されています。

今回改めて読みなおして、生徒と正面から向き合う、先生のエネルギーで熱気を帯びた姿勢が、どのような淵源や背景をもっていたのかを窺う手がかりを得ることもできたように思えます。

10年ほど前、我々が同窓会総会の当番学年だったとき、久しぶりにお会いし、しばしの歓談の時を持つことができました。しかしその数年後、今年を最後としたいとの年賀状を受け取ることになりました。『自伝』にも縷々書かれています。先生の人生は多くのけがや病との格闘の日々でもあったようです。今はその戦場を離れて安らかに休息を取られていることと思います。

阪本先生、今日にいたるまでの半世紀を越えるご指導に対し、あらためて御礼申し上げます。

ありがとうございました。

令和二年九月二八日

川崎 信文